教員養成に対する理念・構想

大阪電気通信大学の起源は、1941 年に創設された東亜電気通信工学校まで遡ることができる。そして直接的には、1958 年に創設された大阪電気通信短期大学が前身となる。その当時の電子工学科の開設は、東京大学・大阪大学と同時であり、私立大学としてはわが国最初であった。以来、その 50 年以上の歴史において、常に社会と産業の将来を見すえて先端技術を究め、また新たな文化・産業を創造することにより、社会進歩に貢献することを目ざしてきた。本学の基本理念は、以下の３点であり、ホームページなどにより公開されている。

(1) 大阪電気通信大学人としての人間像を目指し、学生・教職員すべてが切磋琢磨して共に学ぶ場である
(2) 手と頭と心を同時に動かす実践型教育を重視する
(3) 不断に学びを続け、自己の成長に努力を惜しまない姿勢を貫く

さらに、この基本理念に基づいて本学が目指す人物像として

(1) 基礎的人間力を備え、実際の課題を解決できる現実的対応力を磨き、自律的に自己を成長させる人
(2) 個性を発揮し、自らの役割を、責任を持って果たし、社会に貢献する人
(3) 自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営み、人間的完成を目指す人

を掲げている。

本学における教員養成の理念は、基本理念および目指す人物像に立脚している。すなわち、実践的な教育により先端的科学技術を究め、新しい文化・産業を創出できる人材育成をもって社会に貢献しようとするものである。これらは、科学技術の基礎的な教育と、人間的完成を目指した総合的人間教育を融合させることによって実現できる。

具体的には、広範にわたる先端的な科学技術を極めるにあたり、数学、物理、化学はもちろんのこと、工学、情報科学などのその根幹をなす基礎学力を十分に身につけられるよう工夫されたカリキュラムを準備している。そこでは実験や演習、少人数ゼミナールを多く配置し、柔軟かつ論理的な実践力・思考力・表現力をもつ人材の育成を目指している。これにより、身をもって科学の楽しさを知り、かつそれを教授できる教員養成が可能となっている。

また、こうした科学技術の基礎的知識をベースとしてそれを先端的な分野に応用する技量だけでなく、豊かな生活を営むための人間としての基本的な資質をみがくことにも注力している。これにより、社会の中心に立ってその要請にこたえるべく不断の努力を続けることができる人間性豊かな人材の輩出が可能になると考えている。そして、そのたしかな人間性により、社会から広く信頼される教員となりうると期待している。

工学部(4 学科 2 専攻)、情報通信工学部（2 学科）、建築・デザイン学部（1 学科 2 専攻）、健康情報学部(1 学科 3 専攻)、総合情報学部(3 学科)を擁する本学は、工学的基礎教育を中心とした教科教育とともに、その技術を社会の進歩と人間の尊厳の確立のために役立てる総合的な人間教育を行うことを目指している。そしてこうした教育課程に立脚して、数学・理科・工業・技術・情報および保健体育の教員免許に関する教職課程をおいている。「教科に関する専門的事項」については、学科専門科目において当該教員免許で必要とされる要件を満たす豊富な科目群を準備し、それに精通した教員が教育を行っている。その一方で、「教育の基礎的理解に関する科目等」については、担当する教員の多くが「人間科学教育研究センター」に所属し、「人間の探求」「文化の理解」「社会の認識と人権」などの人間性をはぐくむための共通科目を準備している。さらに、教員養成に深い造詣を持つ教員が中心となって、専門教育を行う各学科との橋渡しをおこない、教職学生一人一人まで目が行き届いた手厚い教員養成教育を行っている。

上記の教員養成の理念・構想のもとで、本学では以下のような教員を養成しようとしている。

(1) つねに学び、実験し、たしかな専門性を身につけようとする科学者としての姿勢を身につけた教員
(2) 子どもの内面をとらえ、深い信頼と愛情をもって向き合うことのできる人間性豊かな教員
(3) 子どもや親の願い、社会の要請に耳を傾け、つねに自分を高め、発達させていこうとする自己教育力をもった教員

これらすべてを満足する教員の養成はたやすいことではないが、本学の全教職員が一丸となって多くに優秀な人材を世に送り出すべく、不断の努力を続けている。